大動脈弁置換術後の弁機能評価；経時的変化からの考察

○黒済　和代 (天理よろづ相談所病院)，高橋　秀一，廣田　貴代，後藤　きよみ
橋和田　須美代，山本　慶和，松尾　収二

大動脈弁置換術（AVR）後の人工弁の観察については困難な例が多く、間接的所見に頼っているのが現状である。今回、AVR術直後に大動脈弁口部最高血流速度 (AOV)が速く経過観察中に軽減する症例を経験し、他の症例とその特徴について比較したので報告する。

＜対象および方法＞

1999年 1月～ 2002年 6月にAVRを施行した 88例 (大動脈弁閉鎖不全　25、大動脈弁狭窄　63)のうち、心房細動を除いた 70例 (機械弁 42、生体弁 28)を対象とし、術直後 (15日以内)に心エコー検査でAOVおよび左室流出路血流速度 (LVO)、LVOとAOVの速度時間積分値 (VTI)比、左室駆出率 (EF)を求めた。また、術直後AOVが 3.1m/s以上で、経過観察が可能であった症例についてその特徴を検討した。

＜結果＞

70例中、術直後AOVが 3.0m/s以下であった症例は 57例（機械弁 35、生体弁 22）、3.1m/s以上が 13例（機械弁 7、生体弁 6)であった。13例中経過観察が可能であった 9例の特徴を示す。9例中 7例は、経過観察中にAOVが術直後より減速し、その特徴は、術直後のEFは亢進、VTI比は 0.35以上であった。9例中 2例は、術後 1年以上でもAOVが 3.1m/s以上で術直後よりさらに加速し、その特徴は、術直後のEFは正常、VTI比は 0.30以下であった。

＜考察＞

術後の心エコー検査は、手術結果の判定に必須であり定量評価が望まれる。術直後でアプローチ困難な状況でもAOVとLVOは比較的容易に計測できた。経過観察中にAOVが改善した 7例全例で、術直後のEFが亢進していたことから、貧血や投薬による高心拍出量の状態がAOVに影響を与えた可能性が考えられた。AVR術直後にAOVが速くても、経過観察で減速する例と加速する例があり、この鑑別に術直後のVTI比が有意義であった。

＜結語＞

AVR術直後のAOVのみでは、弁機能評価は困難であり、VTI比を組み合わせて行うことが必要である。

連絡先 0743-63-5611 (内線 8724)